

令和3年度 奈良市立帯解こども園 研究実践概要

園長名 岡本 和美

全園児数 128名

1. 研究主題 「やりたい」「やってみよう」の思いの中の子ども的心
～心の動きや行動の変化から考える環境構成と援助の在り方～

2. 研究年度 初年度

3. 研究主題設定理由

子どもの心が動いた姿や行動には、心が動いた瞬間と考えられるしぐさや表情、言葉であったり、そのきっかけとなるものがある。実践においては、そのことを踏まえて子どもたちの「やりたい」「やってみよう」という思いの中の「心の動き」や「行動」をより深く捉えて遊びや生活の中での環境や援助の在り方を検討していくことの重要性を感じている。

そこで、子ども達はひと・もの・ことをどう見て、どう感じ、どのように向き合っているのか、心の動きや変化を子どもの視点で着目して環境構成や援助をすることで、子どもの姿や活動がどのように変化し子どもが「やりたい」「やってみよう」を実現していくのかを探ることとした。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

子どもの「やりたい」「やってみよう」を実現するための子どもの心の動きに基づいた環境構成や援助の在り方について考える。

②研究の重点

- ・研究主題について職員相互の共通理解を図り、具体的な取組の方法を探る。
- ・日々の保育実践を振り返り事例検討を通して、子どもの視点に立ち、心の動きや姿を捉える視点を明確化する。
- ・子どもの姿や行動の変化にかかわる環境構成や保育者の援助の在り方を検討する。

③活動の方法

0～5歳児の各実践事例について心が動いたきっかけ、心が動いた瞬間、心の動きの3点で分析をし、検討した。

【0歳児】8月 「まてまてー」

ねらい：歩く、しゃがむ、ハイハイするなど体全体を動かして遊ぶことを楽しむ。

保育者との信頼関係ができ、身近な人への関心、関わりが広がる。

ベビーベッドの下をトンネルにしてA児がハイハイで通り遊び始めた。隠れてたので「あれ？Aちゃんいないなあ…どこいったかな？」「あっ見えたね。ばあ！」と保育者が声を掛けると「ばあ」と覗いて保育者の顔を見て喜ぶ。保育者の「ばあ」の言葉を待ちながら、何度もいないいいないばあをして楽しんでいた。その様子を見ていたB児がやってきた。「Bちゃんもきたね。どこいったかな？ばあ！」と同じように声をかけるとB児も笑顔で遊び始め、A児とB児は代わるがわるハイハイや「ばあ」を繰り返して、保育者とのやりとりを楽しみながら遊んでいる。隠れるタイミングが2人揃った時を見計らって「あれ？AちゃんもBちゃんもいないなあ…」「2人ともどこいったのかなあ？」と2人がお互いの存在を意識できるような声掛けをする。その言葉を聞いた2人は隠れて、保育者の「ばあ」という声に合わせ同時に顔を出した。「うわあ！たあ。AちゃんもBちゃんもいたね」「ばあ！」と保育者が2人一緒に出てきた楽しさに共感し驚いた様子を見せると、顔を見合わせながらキャッキョッと喜んで笑う。もう一回しようとB児がハイハイを始め、その後A児が続いた。「Bちゃん、Aちゃんが後ろから来たよ。逃げてー」「Aちゃん、Bちゃんのことまてまてー」と追いかけてっこをしているような雰囲気になるように声を掛ける。B児は保育者の言葉を聞いてキャッキョッと声を出しながらハイハイのスピードを上げた。それを見てA児もハイハイの

顔が見えたり隠れたりすることが面白い(ドキドキ)
ばあ！まだかな(ワクワク)

おもしろそうだなあ(ドキドキ)

楽しい、もっとしたい！(ワクワク)

ばあ！楽しい(もっとやりたい)

ばあ！まだかな(ワクワク)

私ももう1回したい(ワクワク)

おもしろいね。楽しいね！(興奮・ワクワク)

何だか楽しい(ワクワク)

Aちゃんが来た。逃げよう！(ドキドキ)

スピードを上げる。「うわぁAちゃんがまてまてーだっ!」「Bちゃんが逃げよーだっ!」と2人の行動を言葉にして遊びを盛り上げる。「まてまてー」「逃げてー」のドキドキするような声掛けに何度も何度も繰り返して遊びが続き、3人の笑い声が続いた。

何かとにかく楽しい!(もっともっとやりたい)

<評価>

保育者との安定した関係が大きな基盤となり、安心して遊べるようになってきた。繰り返す楽しさ=パターン化された安心感(わかっているからこそ面白い、期待する)を楽しむようになる。保育者の簡単な語りかける言葉がわかり始めてきたため、行動や気持ちに共感、代弁したり、場の雰囲気をつくったりすることで、保育者や他児、また他児の遊びを意識したり関わろうとしたりして心動くきっかけとなっている。このことからそういった援助を大切にこれからも関わっていききたい。心が動いた瞬間のサインは言葉がまだ出ていない分、声や目の輝き、表情、四肢の動き、アイコンタクトなど様々な反応で表されるため、見逃さず受け返せるかが大切であることも改めてわかった。

【1歳児】10月 「もっかい!」

ねらい：登ったり滑ったりして、思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。

保育者との信頼関係の中で、言葉や身振りで安心して自分の思いを表出する。

A児は築山に登ろうとするがうまく前に進まず、一緒に遊んでいた保育者の方を見て

「せんせい!せんせい!」と手を出す。A児は保育者と手を

うまくいかない、助けてほしい(困惑)(要求)

を繋いで築山に登り始めると、途中で偶然足を滑らせ、「あ

先生も同じことしてる!おもしろい!(面白い)

ー!」と言いながら築山の下まで滑り落ちる。一緒に楽し

さを感じてほしいと思い、保育者がA児の真似をして「あ

ー!」と滑り落ちる真似をすると、その様子を見てA児は声を上げて笑う。もう一度やり

たいのか、A児は保育者の顔を見て何か言いたげに

しているの、保育者はA児の目を見ながら「もう

一回登る?」と指を「1」にして声をかける。保育者の言

葉を聞いて笑顔になったA児は、保育者の手ぶりを真似な

がら「もっかい!」と言い、また築山に登り始める。さっきと同じ場所で「あー!」と言

って笑いながら滑り落ちたA児は、再度保育者の顔を見

る。安心して思いを表出してほしいと思い、保育者は笑

顔でA児の言葉が出るタイミングを待つ。さりげなく指を「1」にしてA児に見せると、

A児自ら「もっかい!」と言葉で思いを表出し、保育者の手を引いて

築山に登り始めた。その後も、何度も登ったり滑ったりしながら、最後に築山のてっぺ

んまで登ることができ、満足気な顔をした。

<評価>

少しずつ周囲に興味が出てきたA児の様子を捉え、そばで見守りながらA児の表情を見逃さずにキャッチしたり、保育者との一対一のゆったりとしたかかわりを大切にしたりすることで、A児が安心して思いを表出することに繋がったと思う。また、保育者がA児の表情や声を真似たり、「もっかい!」の言葉に答えて繰り返して一緒に遊んだりしたことで、楽しい時間を共有しながら満足感を味わうことができたと感じる。今後も1人1人のペースを大切にしながら、保育者との安定した関係を築いていきたいと思う。

【2歳児】10月 「恐竜の骨、さがしてるの」

ねらい：保育者や友達と一緒に見立てやつもり遊びを楽しむ。

A児が砂場でスコップを使って砂を掘っている姿を見て、「Aくん、砂掘ってるの?」

と保育者が聞き、A児がどのようなイメージの中で砂を掘っているのか探る。保育者の問

いかけに対し、A児は「うん!恐竜の骨、さがしてるの」

恐竜の骨を見つけたい(ワクワク)

と答える。A児と保育者が砂を掘っている姿を見てB児が「何してるの?」と聞き、「A

くんと恐竜の骨、探してんねん。」と保育者が答え、遊びのイメージを共有する。3人で

しばらくの間「恐竜の骨、どこにあるかな?」「まだ出てこないなあ。」と言いながら砂を

掘り、保育者が砂の中から小さな石を見つけ、「うわ!これ、

恐竜の骨じゃない?」と2人に尋ねる。2人は揃って「それ

もっと探したい(ワクワク)(興味) 思っているのと違う(イメージ)

は、石や。」と答え、再び掘り始める。

保育者は2人の思いを受け止めながら、「恐竜の骨って、どん

なんやろなあ。おっきいのかなあ。」と問いかけると「うん、

おっきいで!」とA児が答える。そこへC児も来て4人で掘り

始め、保育者が再び砂の中から石を見つけるが、A児は「それも違う。石や。」と言う。

保育者は更に恐竜の骨のイメージを広げたいと思い、

「恐竜の骨って何色なんやろ?」と3人に問いかける

茶色・白・ピンクの骨、あるかなあ(期待)(興味)

と「茶色!」「白!」「ピンク!」とそれぞれに思っている色を答える。そして再び掘り始

めるが、片付けの時間になる。結局その日は、恐竜の骨は見つからなかった。

<評価>

A児の「恐竜の骨、さがしてるの」という遊びのイメージを保育者の仲立ちのもと、B児やC児と共有しながら遊ぶ姿があった。また、恐竜の骨のイメージがどのようなものなのか大きさや色を子ども達に聞き、それぞれのイメージを受け止めながら遊びを進めた。子ども達のイメージする恐竜の骨を作ることも考えたが、「どこにあるかな?」と期待しながら砂を黙々と掘る姿を見て、ワクワクしながら掘ることを楽しめるようにした。結果、片付けの時間になっても骨が見つからなかったことを残念がる様子はなく、満足した表情をしており、次の日の遊びにも続いていた。

【3歳児】10月 「火山の噴火や！」

ねらい：保育者や友達と一緒に山をつくることを楽しむ。
砂や水などに触れて遊ぶ中で、その特性や面白さを感じる。

砂場でA、B、C児がスコップやコテ、シャベルなどを使って山をつくり始めた。山がある程度の大きさになると、A児が「トンネル掘る」と言っ

じょうごで穴をあけてみよう! (試す)

思った通り上手く穴があいた!(喜び)

楽しそう!同じようにやってみよう!(興味)

突き刺した。穴があいた様子を見て、嬉しそうに「穴あいたね〜」と言っ

突き刺した。その姿を見て、C児も同じようにじょうごを取ってきて、A児と一緒にいくつも穴をあけ始める。山にたくさん穴をあけると、A児は「穴いっぱい」と手をたいて

喜んだ。C児はペットボトルに水を入れて持ってくる、あけた穴の中に水を入れた。すると、山の中に水が吸い込まれる様子を見て、「お水なくなった!」と興奮気味で保育者の方を見て、何度も水を汲みに行き、穴の中に水を入れた。保育者も「あれ?お水なくなったな

あ。面白いなあ。」とC児の驚きを受け止め

面白そう!自分もやってみよう!(好奇心)

なくなった!どうして?(驚き)

ると、A児も同じようにペットボトルに水を入れ、穴の中に水を流し始めた。繰り返して穴に水を入れていると、今度は水が溢れ出してき

わあ!火山の噴火やあ」とC児や保育者の方を見て驚いた。「すごい!お水溢れてきたなあ。火山が噴火したみたいやなあ。」と子どもと一緒に驚き、共感すると、C児は何度も繰り返し穴に水を入れ、A児は「マグマの流れるところつく」と言っ

水が流れる道掘り始めた。

いいこと思いついた!もっとこうしたい!(思い付き)

もったやりたい!もっと水を入れたらどうなるかな?(楽しい)(予想)(期待)

さっきまでお水なくなったのに溢れた!なんで?(驚き)(面白い)

<評価>

毎日繰り返し山づくりをする中で、こういう山をつくりたいというイメージをもって遊んでいた。山のトンネルをつくるために穴をあけると、穴をあけることが楽しくなり、穴だらけの山になったが、子どもの「おもしろい」「こうしたい」という思いを尊重し見守ったことで、水を入れると吸い込むことに気付き、繰り返し入れることで水が溢れるという偶然の面白さに出会うことができた。子どもが「おもしろい」と感じた瞬間を保育者もそばで共有し、驚きや興奮を受け止めたことで、「もっとやってみよう」「こうしてみよう」という思い付きや好奇心に繋げることができた。

【4歳児】6月 「めっちゃでっけえ宝石見つけた！」

ねらい：水や砂、土、泥などの感触を楽しみながら遊ぶ。
気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。

砂場で石を探す“宝石探し”の遊びをしていた子ども達が、園庭の地面に埋まる大きな石を見つけた。5人の子

先生、めっちゃでっけえ宝石見つけた!」と興奮しながら保育者に伝え、手で石を掘り出し始めたが、「全然取れへん」と上手い

かない。C児が「そうや。水掛けよ!」と石の周りに水を掛けるが、なかなか地面の砂は削れない。次にC児は「おっきいスコップ持ってくるわ!」とシャベルを使うことを思い付くがうまくい

かない。保育者も「なんかやりにくいな」と子どもの気持ちに共感しながら一緒に掘り進める。するとD児が「小さいのあったらいいやん!」と思

い付き、スコップを使い始めた。しかし、スコップでもうまくいかず、段々力任せに叩きつけるようになる。砂は少し削れてきた

が、まだまだ取れそうにない。「どれぐらいでかいんやろ?」「カメの甲羅みたいやな」などと、石の模様や形に気付き、興味をもち始めるが片付けの時間になってしまった。「また明日もしよう!」「絶対

に取るな」と諦めずに取り組みもうとする姿が見られた。

砂場以外にも宝石があった!しかもかなり大きい!(偶然の発見)(興奮)

いいこと思いついた!こうしてみたらどうだろう?うまくいかもしれない。(思い付き)(どうなる)

もっといいこと思いついた!次はこうしてみたらどうだろう?うまくいかもしれない。(もっとやりたい)(思い付き)(どうなる)

色々試してみたけど石は取れそうにないなあ。(もういや)(諦め)

やっぱり諦めきれない。もうちょっとで取れるかもしれない。掘り出せたらどうなるかな。(もっとやりたい)(どうなる)

<評価>

この遊びを通して、地面の砂の固さに気付く子どもの姿が見られた。固い地面から石を掘り出すのがうまくいかなかったことがきっかけとなり、様々なアイデアを友達と出し合っ

子どものアイデアを拾ったり広げたりしたことで、何度も試したり工夫したりしながら遊ぶ姿に繋がった。

【5歳児】10月 「イライラしてきた…」

ねらい：友達と試したり、工夫しながら遊びを進める。

友達と目的を持ち、考えを出し合ってやり遂げようとする。

トイやパイプをつなげて、ドングリやビー玉、ピンポン玉を転がして遊んでいる。A児は長いコース作りに挑戦していたが時間が足りず作り切れなかったが長いコースを作りたいと言う思いを持ち、前日の振り返りで「友達がたくさん来て欲しい」と話していた。コースを作り始め「こっちから向こうにいきたい」とA児が話し、「これお願い」と友達と協力してトイや台を石垣の上に運ぶ。目標の場所までトイをつなげられると「1回転がしてみよ」とビー玉を転がし、何度か試すが、コースの曲がる部分のパイプのところでビー玉が止まってしまう。保育者が「なんで止まるんやろ？」と問いかけるとパイプをのぞき込み「ここで止まる」「段になっている」「上に向いてるからかな」と子ども同士話し合う。A児が、パイプの向きを変えようとするが他の部分のトイが崩れてしまいコースが壊れてしまう。それぞれコースを直そうとするがまた壊れてしまう。A児はパイプの向きを変えようとするが重さも重く上手いはず「イライラしてきた…」とガクッと肩を落として、ため息をつく。様子を見守っていた保育者が「みんなにどうしたいのか話してみたら？」と提案するとB、C、D児にA児が「これをこっちに向けたいけど、一人でできひん」と話す。「ここかあ」「まずここからしよ」と4人でパイプの向きを調節し始め、持ってきた木の台で、パイプをはさむと思っていた方向にパイプを向けることができた。壊れたコースを直して「いけそう」「試してみよ」とビー玉を転がし、みんなでビー玉の行方を追いかけて見ながら、最後まで転がるとA児は「やったー！」と飛び跳ねてみんな喜んで。

たくさん友達が来れば長いコースができてそう。(予想)

できた!ちゃんと転がるかな?(試す)

どうしてとまるんだろう(疑問・予想)

やりたいけどできない(つまづき)

できなくて困っている。一緒にしてほしい(思いを伝える)

みんなでここからしてみよう(友達の思いを受け止める)

これで最後まで転がるかも(予想・期待)

止まらずに進んでほしい(願望)

やった!うまくいって嬉しい。(達成感・感動)

<評価>

友達と「ここまでコースをつなげたい」と目的を共有してトイやパイプをつないでコースを作ることができたが、転がしてみると止まってしまう場所があった。何度か繰り返すが止まってしまう、ここで止まるという事はわかるが「なぜ？」というところには思いが至らない姿があった。「なんでとまるんやろ？」と保育者が問いかけることで、その原因に気付くことができた。また、自分達で遊びを進めて欲しいという思いで見守り、A児がパイプの向きを変えたいが一人では上手くいかずにつまづき、「イライラしてきた」と思いを表現した時に、保育者がその心の動きを見取り、みんなに話す事を提案した。A児が言葉で思いを伝え、まわりの子ども思いを受け止めることで一緒にパイプの向きを変え長いコースを作ることができ、最後までビー玉を転がしたいという目的を達成することができた。

5. 研究の成果

- ・心の動きをふきだしにすることで、子どもの思いを中心に姿や活動を捉えて視点を焦点化することができ、保育者として見取りの精度が高まり、改めて子ども内面、心の動き、行動の変化といった子ども理解を深めることにつながった。
- ・子どもの視点に立ち心の動きに焦点を当てて各年齢の事例を検討する中で、自分の見取りや考えを他者に伝えるように言語化したり、他の保育者の視点や発達とも照らし合わせたりするとともに、各年齢の育ちを連続した育ちとして共有しながら、各実践を振り返り見つめ直す機会となった。
- ・乳児、幼児の担任間での事例検討の時間確保が難しい中、読み解きの方法を共有し、検討の時間の持ち方や内容を深めていくための話し合い方をその都度見直ししながら進めていくことができた。

6. 今後の課題

- ・事例では、吹き出しという形で心の動きをそれぞれの書き様で表記してきたが、発達に応じた言語表現や、より子どもの心に合った表現がどのようなものかをさらに検討していく必要がある。
- ・子どもの具体的な思いを中心に事例の検討を続けていく中で、どのように保育者の援助や環境構成に活かしていくのかを事例の評価の記載内容と共に探していきたい。
- ・乳児、幼児の職員間で十分な検討が行えるよう、効率的な検討時間の確保の方法を引き続き課題としつつ、園内研修等の活用も考えながら取組をすすめていきたい。